

桜蔭俳話会 三月句会 (第三四三回)

平成二十八年三月二十七日(日)

会場 旭区民文化センター(サンハート)

4点①自分史の次章の扉春の月	守	1点	ふらここや空の青より戻り来る	弘子
2点②死角なき満面の笑み桜かな	守	※	大小のボール遊びの日永かな	秀一
2点②胎動を告ぐる娘や燕来る	友子		鶯の遅き初音や枝の先	かおる
2点②会へるなら棹さしもする花筏	才美		鳥帰る旅の靴紐むすぶ間に	才美
2点①九十のハイタツチ強し広場春	ヤエ子		春の月電車遅れて着く模様	朋子
2点①たんぼの絮やはらかき風のもの	弘子		春の月探査ロボットひた走る	明美
2点 跳び箱の高さ三段すみれ草	守		百千鳥大樹ゆさぶる寺の庭	ツル子
2点 校庭のさくらへ招く回覧板	弘子		猫の恋あわただしきや鳴き声も	直子
2点 山茱萸や藁家の前のキムチ甕	ヤエ子		薄味に炊きし春子を野に分ち	朋子
2点 春の雷話の途切れほぐしけり	秀一		丈低く切られし椿花多し	眞壽
2点 春帽子飛んであひるのお濠端	幸		春めきてもののひとつに街の色	邦子
2点 春の田の斑らに染まり熱気球	守		のどけしや綾なす畑の鶏の声	ツル子
2点 青墨のにじみやさしき彼岸寺	友子		南より開花戦言いざ行かむ	直子
2点 時刻表通りのバスや春の雨	秀一		穂の芽のてんぷら頼む田舎なり	眞壽
2点 恐竜の骨たくましや建国日	明美		うららかや返りたがらぬブーメラン	秀一
1点①亡き夫のじゃんばあ羽織る春の霜	かおる		雛の顔しばしみとれる老の母	邦子
1点①汽笛鳴る方へはくれん咲き揃ふ	朋子		春光や外への一步松葉杖	ヤエ子
1点 春一番庭の花びら散り急ぎ	邦子		見上げれば白い花びら弥生の空	直子
1点 春風に吹かれて遠き友尋ね	眞壽		芝うら草を引くにも正座して	朋子
1点 菜の花を土手から一枝花どろぼう	直子		巡り来る花見の時が嬉しけり	眞壽
1点 初蝶や音から決まる子の名前	友子		細道や淡紅色の初桜	邦子
1点 嬌声の孫の指先クロッカス	かおる		昼月に寺の背山の笑ひけり	幸
1点 幾千の合掌白蓮咲きそろふ	才美		菠稜草畑に新種のちぢれあり	ツル子
1点 手の付かぬ森の除染や春の月	守		皐月の夜停年過ぎし同期会	直子
1点 玄海にはじまる桜一花かな	明美		種袋小鉢に挿して笑み浮かぶ	眞壽
1点 暮れかかる色ともちがふ春愁	弘子		復活祭手作りチョコに添ふカード	秀一
1点 新生児の泣く子眠る子初桜	友子		制服の小さきにみえる卒園児	邦子
1点 灯おぼろ男同士で組むタンゴ	朋子		受験子の一夜数式解かむとす	明美
1点 初桜人住まぬ家の鬼瓦	才美		棟上げの槌打つ音や風光る	ツル子
1点 背に小さき卒業間近のランドセル	ツル子		啓蟄や心くすぐる旅雑誌	友子
1点 外国の言葉に混じり花見酒	明美		百千鳥蒔く餌に合図けたたまし	幸
1点 バス停に衿かきあはす浅き春	弘子		(不在投句 古野明美、藤本友子)	
1点 春めくや余命知り経て勤務する	かおる			
1点 孤児孤児と謂はれし日々や忘れ潮	かおる			
1点 啓蟄やテラスにじよろの置き忘れ	才美			
1点 草萌や山への誘ひメール来し	ヤエ子			
1点 クレーンの背伸び届くや春の星	かおる			
1点 朱の屋根の終の住処やミモザ咲く	ヤエ子			

「事務局からお知らせ」

○四月句会 四月二十四日(日)、午後一時。

旭区民文化センター(サンハート)

○五月句会は、五月二十二日(日)、鎌倉で、吟行予定。詳細は追ってお知らせします。